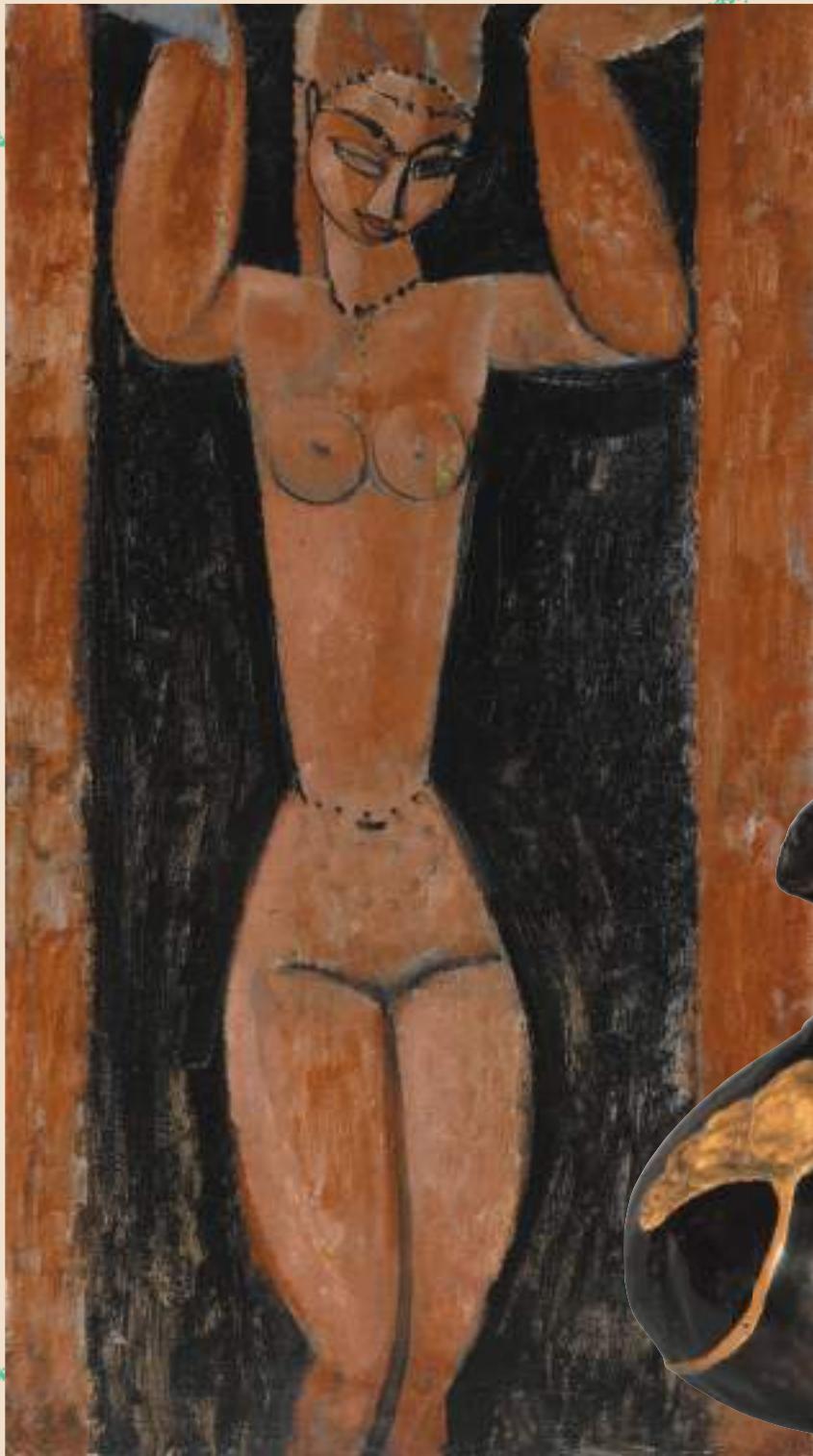


クロスボーダー

越境する

美術



右：エミール・ガレ／ラオン・ル・タッブ製陶所「スター・彩荷葉文水注」1877-84年頃 愛知県陶磁美術館蔵
左：アメデオ・モディリアーニ「カラヴァティード」1911-13年 愛知県美術館蔵

観覧無料

愛知県美術館

愛知県陶磁美術館

移動美術館

2026年2月21日(土)——3月22日(日)

豊橋市美術博物館

開館時間：9:00-17:00 ※初日は12:00から

休館日：毎週月曜日(ただし2月23日は開館)、2月24日(火)

主催：愛知県美術館

愛知県陶磁美術館

豊橋市美術博物館

aomoa
aichi prefecutural museum of art



愛知県陶磁美術館
AICHI PREFECTURAL CERAMIC MUSEUM



豊橋市美術博物館
TOYOHASHI CITY MUSEUM OF ART & HISTORY

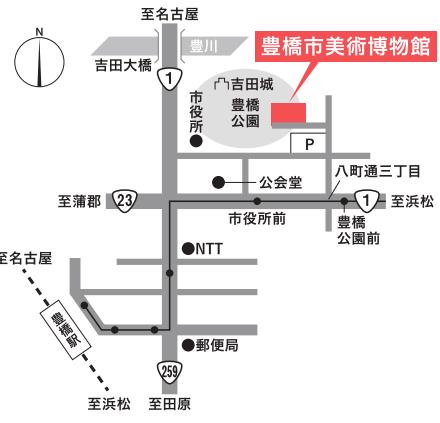
クロスボーダー：越境する美術

愛知県美術館と愛知県陶磁美術館は、より多くの県民の皆様に両館のコレクションをご覧いただきたくため、作品を県内各地に運んで展示する「移動美術館」を毎年開催しています。豊橋市で2回目の開催となる今回は、「クロスボーダー：越境する美術」をテーマに、アメデオ・モディリアーニや藤田嗣治、エミール・ガレなど、国内外の絵画や陶磁器を中心に約60点を展示します。

19世紀末からの鉄道や船の発達により、画家や陶芸家は国境を越えて盛んに移動するようになります。移動の理由は、技法や最新の美術動向を学ぶための留学、逆に技法を教えるための渡航、外貨を稼ぐための移住、戦争による亡命とさまざまです。また、欧米の好みを意識した日本の輸出用工芸が海を渡ったのもこの頃でした。他国に学び、他国の人々と交流した作家たちは、国内では得られなかった技術や経験をもとに作品を発展させていきます。本展では、人や物の「越境」に着目して、美術と工芸の歴史をたどります。



1. 井村陶器店／川本樹吉(初代または二代)《色絵群鶴図花瓶》
明治時代(19世紀)、愛知県陶磁美術館蔵
2. ピエール・ボナール《子供と猫》1906年頃、愛知県美術館蔵
3. ラースロー・モホイ=ナジ《コンストラクション『ケストナー版画集6』より》
1922-23年、愛知県美術館蔵
4. 川本半助(六代)《虎置物》明治時代(19世紀前半)、愛知県陶磁美術館蔵
5. 河井寛次郎《黄葉辰砂花扁壺》1950年代、愛知県陶磁美術館蔵
6. 国吉康雄《帽子の女》1920年頃、愛知県美術館蔵



関連イベント

◎ 記念講演会「移動から見える近代」

日時: 2月21日(土)14:00-15:30

場所: 豊橋市美術博物館 講義室

講師: 平瀬礼太(愛知県美術館館長)

佐藤一信(愛知県陶磁美術館館長)

司会: 岡田亘世(豊橋市美術博物館館長)

定員: 先着80名

※申込不要・聴講無料

◎ ワークショップ「ピンの中でクロスボーダー」

三河、尾張、遠州(湖西)の土に触れて、ガラスピンに詰めていきます。ピンの中でちょっとだけ越境(クロスボーダー)してみましょう。

日時: 3月1日(日)14:00-16:00

場所: 豊橋市美術博物館 講義室

定員・対象: 15名・小学生以上(未就学児は要添付)

申込方法: 2月3日(火)9:00より

電話受付 [TEL: 0532-51-2882] ※参加費無料

◎ ギャラリートーク(学芸員による展示説明会)

日時: ①3月8日(日)、②3月21日(土)14:00-14:40

場所: 豊橋市美術博物館 1階展示室

講師: 愛知県美術館学芸員、愛知県陶磁美術館学芸員

※申込不要・聴講無料

◎ ミュージアムコンサート

日時: 3月20日(金・祝)11:00-11:30

場所: 豊橋市美術博物館 玄関ホール

出演: アンサンブル クレール(女声合唱)

※申込不要・観覧無料

ウェブサイト



[お問い合わせ] 豊橋市美術博物館 ☎440-0801 愛知県豊橋市今橋町3-1(豊橋公園内)

TEL: 0532-51-2882 WEB: <https://toyohashi-bihaku.jp/>

[交通アクセス]

公共交通機関 | JR・名鉄「豊橋」駅前より

市電乗車「豊橋公園前」下車 北へ約250m

自動車 | 国道1号線「八町通三丁目」交差点を北へ

(駐車場70台・駐車券処理で3時間無料)



豊橋市美術博物館

TOYOHASHI CITY MUSEUM of ART & HISTORY